

こまぼん

秋冬

2022.11



お出かけは
好奇心に
身をまかせて

琉球伝統歌舞集団「琉神」

ランドスケープデザイナー／作庭家

岡田 憲久

社会活動家

湯浅 誠

秋の小牧山で自然散策

祝 50 周年! 小牧市文化協会



インタビュー

躍動のステージに 沖縄の芸能を感じる！

琉球伝統歌舞集団「琉神」主宰

鈴木一行

沖縄の民俗芸能を舞台芸術として

表現する琉球伝統歌舞集団「琉神」が、

2023年1月に味岡市民センターで公演を行います。

琉神を率いて自らも舞台上に立つ鈴木一行さんに

沖縄文化との出会いや琉神の結成などの

お話をうかがいました。



—鈴木さんが沖縄の民俗芸能に出会ったきっかけ、琉神を結成するに至った経緯を教えてください。

大学進学で沖縄へ行き、学生時代からセミプロとしてロックバンドでライブハウスや米軍基地をまわってライブ活動をしていました。ある時、沖縄の自然や文化を体験できるテーマパークで、エイサーの舞台出演者を募集していたので応募したところ合格。それがエイサーとの出会いでした。その後、バンドからエイサーへ活動の比重が向かっていき、所属していたプロのエイサー団体でリーダーにもなりました。沖縄の芸能で本土の人がリーダーになるのは珍しいことでした。ただ、毎日テーマパークで観光客に向けて演じるうちに、自分の表現をしたいと思うようになったんです。僕たちがやるステージを観に来てくれる観客の前でパフォーマンスしたい。そんな想いで独立を決意し、2001年に沖縄で「琉神」を結成しました。

—生まれ故郷の静岡を「琉神」の活動拠点にするようになったのは、なぜですか？

沖縄の芸能の素晴らしさを広めたい、そのためにも全国活動をしていきたいと思ったのがきっかけです。沖縄から全国へ出るとなると時間もかかるし、生まれ故郷の静岡なら東へも西へもアクセスしやすいので、ここを拠点として活動することにしました。

—「琉神」の主な活動内容を教えてください。



Profile 鈴木一行

静岡県出身、大学進学とともに沖縄へ。沖縄では米軍基地やライブハウスなどで音楽活動を行っていたが、沖縄の文化・音楽に目覚め、エイサー、三線を始める。エイサーでは沖縄のプロ集団に所属、リーダーとして活躍する。2001年「エイサーチーム琉神」を立ち上げる。全国活動を行うために静岡に帰郷。静岡市を拠点とする。現在、主宰としてチームの取りまとめ、舞台構成、若手の育成などを行いながら、現役アーティストとして琉神の中心として活躍中。

琉神としてのコンサートツアーを行うほか、沖縄の有名アーティストのコンサートに帯同したり、全国の小中高校での音楽鑑賞会にも参加。また、エイサーと三線の教室も行っています。

——「琉神」は国内だけでなく海外での活動経験も豊富です。どういった国々でパフォーマンスをされたのでしょうか？

2009年にユネスコ主催の第33回世界音楽会議で日本代表としてチュニジア公演を行い、同時期にヨーロッパツアー（イタリア、ドイツ、フランス、ルクセンブルク、スイス、ハンガリーなど）も行いました。その他、ジョージア、南アフリカ共和国、韓国、台湾、エクアドル、パナマ、メキシコ、グアテマラ、コスタリカ、ガラパゴスなど海外公演を行っています。

——海外のお客さんの反応はいかがでしたか？

国によって音の捉え方が違って面白いです。和の音楽は表拍が多く、海外で演



勇壮なエイサーの先頭を飾る、大太鼓(ウフデーク：左)と締太鼓(シメデーク：右)。太鼓の皮には、水牛などの皮が使われています。

奏すると珍しがられるのですが、沖縄の音楽は裏拍のリズムなんです。この裏拍をスローにするリズム&ブルースになるんです。南アフリカでは、みんな裏拍のリズムを楽しんで、ピョンピョンと縦ノリで飛び跳ねていました。最後にカチャーシーという沖縄の手踊りをやった時は、夢中になって踊り、舞台上上がった

ちやう人もいるし、すごく盛り上がったのが印象深いです。

——「琉神」の代表的な演目をご紹介いただけますか？

僕たち琉神の真骨頂といえは「琉球獅子舞」と「エイサー」のパフォーマンスですね。「琉球獅子舞」は祭りの奉納芸能で、

うに動き、無病息災を願って獅子がお客さんの頭を噛んでいきます。

「エイサー」は、旧盆の時期にご先祖様の送迎として沖縄の民謡に合わせて太鼓を叩きながら舞う踊りです。こちらでいう盆踊りに相当します。琉神では昔からのスタイルを大事にしながら現代的なアレンジも取り入れているのが特徴です。太鼓を打つ動作ひとつにしても、琉球空手の動きなども取り入れ、身体の流れやバチを持つ手の返し方にも美しさと力強さや静と動を表現しています。

——衣装やパフォーマンスなど、琉神独自のこだわりなどはありますか？

衣装に「琉球紅型(びんがた)」という沖縄で生まれた染物を取り入れています。

エイサー衣装で白を基調にした朱色のものは珍しく、F1日本グランプリの会場でも演舞を行った時は、赤と白はジャパニーズカラーということもあって外国の方々にも好評でした。

メンバーに和太鼓奏者がいるので、和の要素を取り入れた演目も行っています。基本として沖縄の伝統的でクラシカルな表現を大切にしながらも、琉神独自のパワフルで魅力的なパフォーマンスを追求しているので、ぜひオリジナル演目にも注目してください。

——2023年1月のステージは、どのような内容になりそうですか？見どころを教えてください。

琉球獅子舞やエイサー、琉球舞踊など、沖縄の芸能の魅力をたっぷり伝えるステージを披露します。併せて僕たちのオリジナル演目も楽しんでいただければと思います。沖縄の伝統芸能を観るといった堅苦しい感じではなく、琉神の華やかなステージを存分に楽しんでください。



琉神 YouTubeチャンネル

公演の映像などが
チェックできます！



琉球伝統歌舞舞集団「琉神」のホームページ
<http://ryujin-web.com/>

芸術文化講座
講師インタビュー

日本の庭を

自然と共にあろうとする

暮らしの文化として読み解く

ランドスケープデザイナー／作家

岡田憲久さん

一流のアーティストやデザイナーなど、各分野の専門家を講師として迎え、芸術や文化に親しむきっかけを提供する「芸術文化講座」。2023年2月は「庭―再び自然とともにあるために―」というテーマで開催します。そこで今回、講師を務めていただくランドスケープデザイナーの岡田憲久さんにお話をうかがいました。

―ランドスケープデザインという仕事は、こういったものなのでしょう？

大きな広場や緑道、あるいはビルの小さなオープンスペースなど、大小様々な公共的緑地空間、都市の緑の空間をデザインする仕事です。

―ランドスケープデザインの仕事に就く前に、京都の庭師のもとで作庭修行をされたのは、なぜですか？

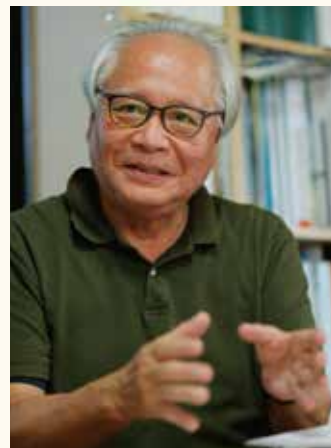


中部大学 工法庵・洞雲亭庭園
「市中の山居」の景が校舎群の中にひっそりとたたずんでいます。



中部大学 25号館中庭「花鏡の庭」(2004年)
庭と広場の中間的空間としてデザイン。円形の池は前方にだけ水が落ちるよう、後方を4mm高くしています。

平安時代に書かれた日本最古の造園書『作庭記』に、作庭の際の石組みは「石の乞(こ)わんに従いて」とあります。これは、石が庭師に乞い呼びかける声を聞いて、石を並べなさいというものです。この言葉の通り、日本の庭造りにおいては、作庭者の意志よりも、すでにそこにある自然環境、地形の起伏や水分条件、土壌などに配慮しながら場を仕つらえます。そこに、木、水、石といった自然の一断片を組み合わせ、理想とされる自然の姿をデザインしていきます。庭を構成するミクロな自然は、周辺のマクロな自然環境とも呼応して、さらには地球全体、宇宙にもつながっています。庭とは、一本の木、



Profile 岡田憲久

1974年、信州大学農学部林学科卒業後、京都にて作庭修行。89年より景觀設計室タブラ・ラサ主宰。現在、名古屋造形大学名誉教授。平成22年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。平成25年度都市公園コンクール(設計部門・小規模)国土交通大臣賞受賞「太田川駅前どんでん広場」。著書「日本の庭ことはじめ」。



アルペン本社ビル 公開空地(2007年)
水景の吐水口に、古来の器「かたくち」から発想を得たデザインを施しています。

私が大学を卒業した1974年頃は高度経済成長に伴う都市公害が問題化し、ランドスケープデザインの事務所も多く設立され始めた時代でした。そこで、緑地や広場の計画設計へ向かうにしても、まず緑の空間デザインの原初的なもの、日本の庭から学ぼうと思いい、庭師の世界に入りました。

―人間は自然を破壊しながら都市をつくってきました。一方で、庭という形で都市の中に自然を再構築してきました。こうした庭と自然のあり方を、岡田さんはどう捉えているのでしょうか？

庭の石組みは「石の乞(こ)わんに従いて」とあります。これは、石が庭師に乞い呼びかける声を聞いて、石を並べなさいというものです。この言葉の通り、日本の庭造りにおいては、作庭者の意志よりも、すでにそこにある自然環境、地形の起伏や水分条件、土壌などに配慮しながら場を仕つらえます。そこに、木、水、石といった自然の一断片を組み合わせ、理想とされる自然の姿をデザインしていきます。庭を構成するミクロな自然は、周辺のマクロな自然環境とも呼応して、さらには地球全体、宇宙にもつながっています。庭とは、一本の木、

―岡田さんは日本の庭で育まれた人と自然の関係を今に活かす取り組みとして、都市の緑地デザインに長年携わってきたわけですが、ランドスケープデザインの面白さとは何でしょうか？

変化する生きた自然が主役で、私がしているのは場を仕つらえ、整えることです。作庭者の手を離れて、時に意味(デザイン)さえもみ込んで、空間そのものが生きている自然として変化し、時間の経過の中、緑がいろんな関係をひとつにつけてくれるのが、やっていて面白いところです。

―2023年2月の芸術文化講座は、どのような内容になるのでしょうか？

日本の庭を「都市における人と自然との共生の文化」として捉え、いま求められている新たな人と自然との関係にどう活かせるかを、自作の庭や名庭の話も交えながらお話しできればと思います。また、私が取り組んできた作品の写真パネルも会場で少し展示できればと思っています。

世代を超えた つながりをつくる 子ども食堂という 処方箋

社会活動家 湯浅 誠さん

2023年3月に認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの理事長、湯浅誠さんをお迎えして、文化芸術と地域をつながりについて講演会を開催します。そこで湯浅さんに、子ども食堂の役割、地域社会と文化芸術の関わり方などについてお話をうかがいました。

——子ども食堂は、貧困対策だけが目的ではないということですが、改めて「子ども食堂」とはどういうものかお聞かせください。

子ども食堂は、生活困窮で食べられない子どもが行く場所と言われます。しかし、むすびえの調査によると生活困窮者に限定しているのは5%しかなく、別の調査では参加条件のない子ども食堂が78・4%と最も多いことが分かっています。年齢や所得、国籍など、条件は一切なく、誰が来てもいい、多



写真提供：認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ



Profile 湯浅 誠

1969年、東京都生まれ。東京大学法学部卒業。1990年よりホームレス支援に従事し、2008年の年越し派遣村村長を経て、2009年から3年間内閣府参与に就任。2018年、全国子ども食堂支援センター・むすびえを設立し、理事長に就任。2019年より東京大学特任教授。著書「つながり続ける子ども食堂」など多数。

世代交流の拠点として機能しているのが、子ども食堂です。公園みたいな場所だと思っていただけではないと思います。こうした場所は、実は世の中に多くないため、市民が自発的に取り組み、子ども食堂を続々と立ち上げています。

——現在、子ども食堂は全国に約6千か所あり、5年で約18倍以上に増えていますね。

公園のような場を求める背景として、まず地方では、地域が寂しくなり、にぎわいを取り戻したい、つながりをつくりたいという想いがあります。一方、都会は人との縁が薄くなり、隣人の顔も分からない状況に交流の必要性を感じています。こうした問題意識を持った地域や個人が、子ども食堂をつながりづくりの処方箋として、それが広がっているんですね。

——コロナ禍などで、子ども食堂の活動も難しくなっているのでしょうか？

コロナ禍で会食ができなくなっても、みなさん弁当や食材を配付して、なんとかつながり続けようとなりました。また、コロナ禍だからこそ、つながりが大事だと、新たに子ども食堂を始める人もたくさんいて、子ども食堂の増加ペースはコロナ禍以前と変わっていません。無縁に抗って縁をつくってきた人たちは、つながりを断たれてなるものかと、いっそう頑張っています。2022年で10周年の子ども食堂は、これから



お弁当配付の様子。コロナ禍でも7割の子ども食堂が弁当や食材の配付で活動を継続しました。

も民間の自発性と多様性を守っていくこと、そして、こういう場所が必要だという理解を広めていくことが大切です。

——地域のつながりづくりにおいて、文化芸術に期待されることはありますか？

コロナ禍で会食ができなくなり、弁当を配付するだけだと、交流は一瞬で終わってしまいます。そこで、多世代がつながることができるとコンテントで会食なしの居場所をつくろうと苦心しています。例えば、ダンスが得意な地元の高中生たちとダンスを楽しんだり、高齢者とけん玉や糸電話で遊んだり。こうしたダンスやクリエイティブな遊びも、アートですよね。多世代のつながりや交流の促進に、文化芸術もチカラを發揮できるのではないのでしょうか。

——困っている人のために、地域の活性化に…と、何かアクションを起こしたいと思っている人たちにメッセージをお願いします。

私は、障がいのある兄のために来ていたボランティアの人たちによく遊んでもらったことを、40年経った今でも覚えています。ボランティア活動で特別なことをする必要はありません。「居るだけ支援」という言葉もあります。世の中には親以外にもいろんな大人がいて、その人たちと接する経験が子どもの世界を広げます。居るだけで助けになる。特別なことはできなくていいんだと思って行動してみてください。



全国子ども食堂支援センター・
むすびえホームページ
<https://musubie.org/>

小牧山史跡公園 (芝生広場周辺)

9



四季桜

春と秋に花を咲かせる桜で、花の蜜を吸いにメジロなどがやって来ます。



シラカシ

11月～12月頃に、どんぐりになるアラカシやシラカシなどの木があります。



モズ



ムラサキシキブ

雑木林の中で鮮やかな赤紫の小さな果実が目をはきます。



自然観察指導員
清水 豊さん



小牧山は濃尾平野にポツンとある小高い山で、渡り鳥が休息する場所にもなっています。自然豊かで、野鳥をはじめ、昆虫や草花も楽しめます。目で見るだけでなく、耳で鳥や虫の鳴き声を聞き、鼻でにおいを感じ、手でさわったり、味わってみたり、五感を使って自然を感じながら歩いてみてください。

1 合瀬川

コイやオイカワなどの川魚、ダイサギやコサギ、カルガモなどの水鳥が見られます。運がよいと堰堤に止まっているカワセミが見られることも…。



ダイサギ・コサギ



カワセミ



オイカワの群れ

2 れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)



れきしるこまき
(小牧山城史跡情報館)
小牧市堀の内一丁目2番地
TEL / 0568-48-4646
開館時間 / 9:00～17:00
休館日 / 第3木曜日、年末年始

小牧山城の石垣や城下町など、小牧山の歴史を模型や映像で分かりやすく紹介しています。



ヒメアカタテハ

初冬に黄色い花を咲かせる、ツワブキの花の蜜を吸いにやって来ます。



チカラシバ

道端でよく見かける雑草で、ねこじゃらしの仲間。穂の部分を指で摘んでしごく、栗のイガのようになります。

見ごろは
11月中旬～12月上旬 /

3 桜の馬場



春はサクラや小牧市の花ツツジ、秋はモミジを中心とした紅葉が楽しめます。



ムラサキシジミ



シジュウカラ



五段坂 7

五段坂と呼ばれるジグザグの坂道は、鳥の鳴き声が絶えません。風の音や木々のざわめき、虫の鳴き声などにも耳を傾けてみましょう。



アカゲラ



アオマツムシ

鮮やかな緑色のコオロギの仲間。夏の終わりから秋にかけて小牧山全体で鳴き、とてもにぎやかです。



ヤマノイモ

「むかご」という小さな球芽がなり、食べるとプチッとしたり小粒の中に山芋の味わい。むかごご飯にしたり、素揚げにして塩をふり酒のつまみにするのもおすすめ。

小牧市の木「タブノキ」 6



ヤツデ

その名前から葉が8枚と思われがちですが、実際は7~9枚、葉の数が奇数になるのが特徴です。

中部地方ではあまり見られない木で、小牧山にのみ自生しています。花は5月頃に咲き、9月頃に灰褐色の実をつけます。



ヒヨドリ



トビ
上昇気流を利用して空を優雅に舞う、タカやトビの姿も見られます。



小牧市歴史館 5



小牧市の郷土資料を展示。4階展望室では、小牧市街、御嶽山や伊吹山などを一望できます。

小牧市歴史館

小牧市堀の内一丁目1番地
TEL / 0568-72-0712
開館時間 / 9:00~16:30
休館日 / 第3木曜日、年末年始

クスノキの巨木



樹齢は50年くらい

葉っぱのにおいも、
防虫剤のよう…。

クスノキから抽出した成分は、天然由来の防虫剤しょうのうの原料になります。



カワラヒワ

モミジバフウの実をついばむ姿が見られます。

小牧山史跡公園 (小牧山の北側) 8

小牧山の北部では、木の実をついばみにいろんな野鳥が飛来します。



大手道 4



小牧山城の正門にあたる大手口から山頂に通じる大手道では、いろんな野鳥が見られます。



ウグイス



フユイチゴ

秋から冬に赤く小さい実をつけ、食べることもできる野いちご。



ツチイナゴ

目の下に涙を流したような柄があるバッタの仲間。草の茂みの中で見られます。

祝50周年！小牧市文化協会

小牧で生まれ
受け継がれた芸術文化を
未来へつなぎたい。



— 小牧市文化協会設立のきっかけと、現在の活動状況をお聞かせください。

小牧市文化協会は、1972年（昭和47年）8月1日に、書道連盟、美術協会、写真連盟の3団体で発足しました。初代会長は、書道連盟の代表を務めていた山本南陽先生でした。当時、小牧市は文化不毛の地とも言われていたのですが、小牧市の中にも様々な芸術文化活動をされている方がたくさんいて、小牧市に文化を根づかせるためには、こうした方々が結束して共に活動していく必要があると考え、南陽先生の呼びかけで小牧市文化協会はスタートしました。

小牧市文化協会 会長

しょう きん
志村松琴さん

小牧市民の芸術文化活動を支え、日本の伝統文化の発展・継承に取り組む「小牧市文化協会」は、2022年の今年、創立50周年という大きな節目を迎えました。そこで、芸術文化活動への想いや今後の展望について、会長の志村松琴さんにうかがいました。

現在の加盟団体は14団体、1053人の会員が所属しています。主な活動としては、市民まつりをはじめとした様々な小牧市の催しへの参加協力。会派や流派などの垣根も越えた会員相互の交流と文化活動の振興を図るため、加盟団体の合同発表会として「総合文化祭」を開催しています。

— 日頃の創作活動や練習の成果をたくさんの方に見ってもらうことが、芸術文化活動のモチベーションになるのではないのでしょうか？

そうですね。小牧市には芸術文化活動がおこなう団体がこんなにもあると、そして



小牧市文化協会創立50周年記念 第50回総合文化祭

2022年5月24日～29日

生花体験



文化体験ワークショップの様子。



みんなで描こう
小牧の未来

— 2022年5月には、小牧市文化協会創立50周年記念として総合文化祭が開催されました。

— 2022年5月には、小牧市文化協会創立50周年記念として総合文化祭が開催されました。

総合文化祭は、毎年5月に展示の部と芸術発表の部に分けて開催しています。この2年はコロナ禍で中止になっていましたが、創立50周年の節目を迎えた今年は無事開催できて良かったのです。総合文化祭では、子どもから大人まで少しでも市民のみなさんに芸術の魅力にふれていただくとうと、絵画や生け花の文化体験ワークショップも開催して好評でした。



小学校で書道の指導をする志村さん。墨を磨る、紙を折るなど、子どもたちは基礎をしっかりと学びます。

小中学校指導者派遣

(ジュニア育成文化活動事業)



— 小牧市文化協会では、子どもたちに芸術文化にふれる機会を提供することにも力を入れているようですね。

2002年(平成14年)から「ジュニア育成文化活動事業」として、要望があれば小中学校へ出向いて、書道、美術、文芸、日本舞踊、太鼓や琴の演奏などの実技披露や指導にあたる活動を続けています。伝統的な芸術文化の継承のためにも、子どもの時期に、本物にふれて、芸術文化の魅力・奥深さを知ってもらうことは大事です。

— 小牧市文化協会が開催している「夏休み子ども文化体験教室」についてもご紹介いただけますか？

小牧市内の小中学生を対象とした「夏休み子ども文化体験教室」では、書道、茶道、華道、バレエや日本舞踊など、多彩なジャンルの教室を開設。毎年夏休み期間に、学校では体験できない芸術文化にふれる機会を提供しています。例えば日本舞踊のお稽古では、踊りだけでなく、美しい所作や立ち振る舞い、日常生活でも活かせる礼儀作法も学べるようになっていきます。「夏休み子ども文化体験教室」を通じて、次世代への伝統文化の継承と、子どもたちの豊かな心づくりにつながればと思っています。

— 50周年の節目を迎えた感想をお聞かせください。



夏休み子ども文化体験教室

(ジュニア育成文化活動事業)
毎年楽しみにして文化体験教室に参加する子どももいます。



茶せてお茶を立てるのが楽しい!

「不易流行」という言葉があります。いつまでも変化しない本質的なものを忘れず、新しく変化を重ねるものも取り入れていくこと。世の中が変わっても変わるべきではないものと、世の中の変化とともに変わっていくもの、それらを常に踏まえて、次のステップへ向かいたいと思っています。

— 小牧市文化協会として、今後チャレンジしたいことはありますか？

これからはジュニア育成に、もっと力を注いでいきたいと思っています。小牧市には、日本画、彫刻、染色、漆芸など、多彩な分野で活躍されている作家さんがたくさんいます。こうした郷土の作家につづく、芸術文化の将来を担う人材を育成できればと思っています。

— 最後に、小牧市文化協会の今後の活動予定をお聞かせください。

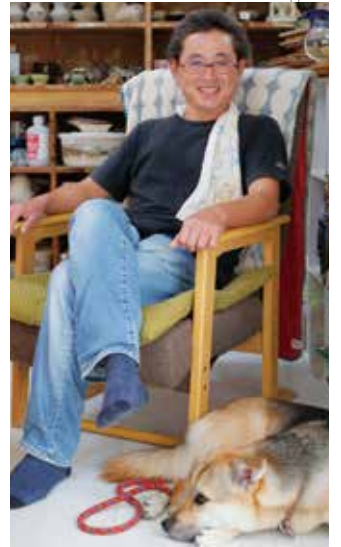
1998年(平成10年)から毎年、まなび創造館あさひホールで「文化講演会」を開催しています。2023年2月9日には市民会館で、福聚寺(福島県)住職で芥川賞作家の玄侑宗久さんをお迎えして「小牧市文化協会創立50周年記念文化講演会」を開催します。文化協会の会員に限らず、一般の方も参加いただけますので、ぜひ、講演を聴いていただければと思っています。

小牧の伝統文化を継承し、次世代に伝播していくことが、私たち小牧市文化協会の役目だと思っています。ただ、時代の変化を見据えないことには、未来はないと思うのです。

こまじん!



カエル陶芸作家
かえでとしおさん



繊細な造形と遊び心で 魅了する陶のカエルたち

盃の中には、酒瓶を抱えた、ほろ酔いのカエルの姿。お酒を注げば、水面から愛嬌たっぷりの顔を出しているかのようです。



かえでとしおさんは、カエルをモチーフにした遊び心あふれる陶器や陶小物を作っている陶芸作家です。「もとは美濃焼の街で知られる岐阜県土岐市出身で、父が陶芸の仕事をしていたため、幼い頃からおもちゃ代わりに陶土を触り、大好きな生き物や怪獣を作っていました」

陶芸は独学で、大学時代に所属した陶芸サークルで作品づくりを始めたという、かえでさん。名古屋造形芸術短期大学と名古屋芸術大学で空間デザインを学び、大学卒業後に建築設計の仕事に就きますが、友人に誘われてグループ展に参加したのがきっかけで、作家活動を本格化します。

「当初からいろんな動物を制作し、その中にカエルもいました。建築会社

を辞めて作家活動に専念するようになった頃、カエルを中心に制作するようになりました。名字の『かえで(楓)』という木は、葉の形がカエルの手に似ているためカエデと呼ばれるようになったというもあって、カエルには自身を投影している部分があるんです」

指先と小さなヘラを使って手びねりで作られる陶のカエルたちは、いずれも一点もの。色の異なる陶土を使い分け、リアルな質感を表現しながら、絶妙なデフォルメで擬人化。とぼけたユーモアを感じさせます。

現在、中部地区を中心に年数回の個展を開催。蛙庵の屋号でクリエイターズマーケットなど対面販売のアーティベントに参加しています。ネット販売でなく対面販売にこだわるのは、作品を手取るお客さんの反応を直接感じたいからだとか。

「子どもの頃の土遊びの延長のように、自分が作りたいモノを作って、作品をみなさんに愛していたるのは幸せなこと。オリジナリティを大切に、この先も作り続けていきたいです」



振るとケロケロと鳴く、カエルの土鈴「ケロケロ鈴」

文化の守り人

小牧市洋舞連盟
いたづけいこ
板津恵子さん
おおひさたまみ
大久珠美さん



大久珠美さん



板津恵子さん

2002年に設立された小牧市洋舞連盟は、小牧市文化協会の加盟団体でもっとも新しい団体です。ミュージカル劇団スペース、かやの木芸術舞踊学園(モダンバレエゆきこま会)、ハラウ・フラ・オハナ(フラダンス)、ローズバレエアカデミーの4団体が、ジャンルを超えた交流と幅広い世代へダンスの普及活動を行っています。

「バレエ、ミュージカル、フラダンスなど、それぞれ個別の活動にとどまらず、みんなでまとまり、力を合わせて小牧の文化を発展させたいと、現会長高峰雪まゆみの呼びかけで文化協会に加盟することになりました」と語るのは、小牧市洋舞連盟で書記を務める板津恵子さんと、会計の大久珠美さん。3年前にともに役職に就き、お互い切磋琢磨しながら連盟の活動をサポートしています。

「洋舞連盟の活動としては、夏休み子ども文化体験教室で小学生対象の子ども文化体験教室で小学生対象の活動をサポートしています。」



第50回小牧市総合文化祭(2022年5月29日)かやの木芸術舞踊学園(モダンバレエゆきこま会)のステージの様子

※フラッシュモブ: 街中の歩行者を装ったダンサーが突然踊り出すサプライズ演出のダンスパフォーマンス

バレエ講座を開催。また、こまき令和夏まつりでフラッシュモブを行ったり、小牧山さくらまつりでフラを披露したり、小牧市の様々なイベントに参加させていただいています」

しかし、新型コロナウイルスの影響で舞台公演の中止など、洋舞連盟の活動や練習に様々な影響が出ています。「コロナ禍で公民館などの会場が使えず、リモートでの開催や人数制限し

てのレッスンになりました。みんなでの練習することで、子どもたちは憧れの先輩から学ぶことも多かったのですが、芸術文化を通した豊かな心の育成の場を守らなければと改めて思っています」


難しい状況の中でも小牧のダンス文化を絶やさぬよう、洋舞連盟の活動は続いています。

「当面の目標は、洋舞連盟に加盟する4団体合同の発表会を2024年に開催することです。3年前に計画してコロナ禍で先送りになっていたのですが、ぜひ成功させたいです」

11月26日(土) 音楽

小曾根真 ピアノ・ソロ・コンサート

会場：市民会館 大ホール
 時間／15：00 開演
 料金 プラチナ席／4,000円 S席／3,000円
 A席／2,500円 B席／1,500円
 ※U25(25歳以下)／各席種の半額(プラチナ席は除く)
 ※未就学児入場不可 ※プラチナ席は完売しました
 チケット好評発売中




©Kazuyoshi Shimomura

12月11日(日) 音楽

中部フィルハーモニー交響楽団 第84回定期演奏会 KOMAKI シリーズ②

秋山のベートーヴェン・ツィクルス6

会場：市民会館 大ホール
 時間／15：00 開演
 指揮／秋山和慶
 料金 プラチナ席／5,500円 S席／4,500円
 A席／3,500円 B席／2,500円
 学生席／1,000円
 (当日窓口にて販売、25歳以下、学生証提示)
 ※S席は完売しました
 チケット好評発売中




12月24日(土)～26日(月) 演劇

テーブルシアター

「三びきのやぎのらがらどん」

児童館ツアー

会場：篠岡児童館、味噌児童館、小牧児童館
 時間／各児童館による
 料金 無料(要整理券)
 整理券予定枚数終了



1月14日(土) 伝統芸能 特集1～2ページ

琉神 ～沖縄の風を運ぶ旅～

会場：味噌市民センター 講堂
 時間／15：00 開演
 出演／琉球伝統歌舞集団 琉神
 料金 一般／2,000円
 U25(25歳以下)／1,000円
 ※未就学児入場不可
 チケット好評発売中



2月4日(土) 音楽

バリアフリーコンサート

会場：味噌市民センター 講堂
 時間／14：00 開演
 出演／中部フィルハーモニー交響楽団(弦楽五重奏、ピアノ)
 料金 500円
 チケット好評発売中

2月11日(土・祝) 音楽

中部フィルハーモニー交響楽団 第85回定期演奏会 KOMAKI シリーズ③

飯森のドイツ・ロマンティシズムへのオマージュ

～ドイツ初期ロマン派の抒情 2～

会場：市民会館 大ホール
 時間／15：00 開演
 指揮／飯森範親 ヴァイオリン／周防亮介
 料金 プラチナ席／5,500円 S席／4,500円
 A席／3,500円 B席／2,500円
 学生席／1,000円(当日窓口にて販売、25歳以下、学生証提示)
 チケット発売日／2022年11月16日(水)





©山岸伸 ©TAKUMI JUN

2月18日(土) 伝統芸能

駒来落語会

柳家三三 独演会

会場：北里市民センター 講堂
 時間／14：00 開演
 料金 一般／2,500円 U25(25歳以下)／1,000円
 チケット発売日／2022年11月18日(金)




2月23日(木・祝) 講座 特集3ページ

芸術文化講座

「庭 ー再び自然とともにあるためにー」

会場：中央図書館 イベントスペース
 時間／14：00～16：00 頃
 講師／岡田憲久
 (ランドスケープデザイナー／作庭家)
 料金 無料(要申込)
 申込受付／2023年1月15日(日)



3月4日(土) 講演会 特集4ページ

みんなの広場をつくるには

～文化芸術と地域のつながり～

会場：味噌市民センター 講堂
 時間／17：00 開演
 出演／湯浅誠(社会活動家)
 料金 無料(要整理券)
 ※未就学児入場不可
 ※整理券は1人2枚まで
 整理券発売日／2022年12月9日(金)



3月11日(土) 音楽

中部フィルハーモニー交響楽団

小牧特別演奏会「名曲の調べ」

会場：市民会館 大ホール
 時間／15：00 開演
 指揮／田中祐子
 ヴァイオリン／ティモシー・チューイ
 料金 プラチナ席／5,500円 S席／4,500円
 A席／3,500円 B席／2,500円
 学生席／1,000円
 (当日窓口にて販売、25歳以下、学生証提示)
 チケット発売日／2022年12月21日(水)




協力：日本音楽財団
 特別協力：日本財団

3月26日(日) 伝統芸能

駒来落語会

「こども寄席」

会場：小牧勤労センター 大広間
 時間／1回目11：00 2回目14：00
 出演／桂宮治 ほか
 料金 一般／1,000円 小学生以下／500円
 チケット発売日／2023年1月21日(土)



メナード美術館

メナード美術館開館 35周年記念展 所蔵企画

35アーティスト vol. I

会期：2022年10月7日(金)～12月25日(日)
 一部展示替有り
 前期：2022.10/7～ 後期：2022.11/15～

35アーティスト vol. II

会期：2023年1月6日(金)～4月2日(日)
 一部展示替有り
 前期：2023.1/6～ 後期 2023.2/21～



熊谷守一《薔薇》
 12/25まで展示

[開館時間] 10:00～17:00(最終入館は16:30まで)
 [休館日] 月曜日(祝休日の場合は直後の平日)、展示替等による臨時休館、12/26～1/5
 [入館料] 一般900円 高大生600円 小中生300円
 [お問い合わせ] メナード美術館 [電話] 0568-75-5787
 予定に変更が生じることがありますので最新の情報はホームページをご確認ください
<https://museum.menard.co.jp>

※内容は変更する場合があります。詳細はウェブサイト、チラシ等で最新情報をご確認ください。



こまき市民文化財団

チケット予約・購入方法

3つの方法が選べます

WEB でスマートに！

予約

www.komaki-bunka.or.jp

にアクセス

24時間受付



支払

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）
- ・クレジットカード決済（※オンラインチケットサービスのみ）

発券

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）

窓口 で直接

市民会館（9：00～20：00 月曜日休館）

東部・味岡・北里市民センター

（9：00～17：00 月曜日休館）

まなび創造館

（9：30～17：00

第3火曜日とその前日の月曜日休館）

※月曜日が休日の場合、水曜日休館

※月曜日はチケットのお取り扱いはできません。

電話 で手軽に

0568-71-9700（9：00～17：00 月曜日休館）

支払・発券

- ・市民会館、市内各市民センター、まなび創造館窓口
- ・セブン-イレブン（※手数料あり）

※各公演、発売初日は上記と異なる場合があります。

〈こまき市民文化財団友の会〉アートフレンド小牧

【特典】チケットの先行予約販売&チケット料金の割引

財団主催事業等（市民会館、各市民センター、まなび創造館等で実施する舞台公演事業等）のチケットが対象となります。※一部を除く

チケット料金	割引額
500円超～1,000円以下	200円引き
1,000円超～2,000円未満	300円引き
2,000円以上	500円引き

【その他の特典】ご自宅に情報誌やイベントのご案内をお送りします。

【会員の種類と年会費】

プレミアム会員	スタンダード会員	メール会員
年会費 1,500円	年会費 1,000円	年会費 無料
先行予約・割引購入は 2枚まで	先行予約・割引購入は 1枚まで	先行予約・割引購入なし 最新の情報をお届けします

会員期間は入会日から1年後の月末までとなります。
例）2022年4月15日の入会の場合、2023年4月30日まで

【申し込み方法】

WEBから

こまき市民文化財団ホームページから、ご希望の会員を選択し、必要事項を入力してご登録ください。お支払方法は、クレジットカード決済、セブン-イレブン決済からお選びいただけます。入金確認後、会員証、規約などをご登録のご住所にお届けします。

窓口にて

市民会館、各市民センター、まなび創造館の各窓口で、入会申込書と年会費を添えてお申込みいただくと、その場で会員証を発行いたします。

一般財団法人こまき市民文化財団

TEL：0568-71-9700 〒485-0041 愛知県小牧市小牧二丁目107

営業時間：8：30～17：15 休業日：月曜日、12月29日～1月3日

HP：www.komaki-bunka.or.jp

こまき市民文化財団 検索



Facebook
@bunka.komaki



Twitter
@komaki_bunka



YouTube
チャンネル



こまきで文化の木を育てよう！